

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑ひだまりの丘グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町大字平澤309		
自己評価作成日	平成 26年 11月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成26年12 月 18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、254バイパス沿いに位置し、たくさんの大型店舗、商店があります。また、小高い所に建てられているため、緑に囲まれつつ日当たりも良いことが最高の立地条件となって降ります。入居されてもできるだけ家庭にいるような環境を整えるよう努力しています。できるだけ、外出の機会を設け、日帰り旅行(外食・伝統工芸会館の和紙づくりに挑戦・お花見・イチゴ狩等)気分転換を図っています。防災訓練等の参加、実習生の受け入れ、毎月来られるオカリナのボランティア、話し相手のボランティア、三味線、舞踊等にも参加され楽しんでいただいております。敷地内にある家庭菜園では、じゃがいも、玉ねぎ、いちじく、柿などの収穫ができ、散歩がてら季節ごとの野菜をとり、食材のひとつ利用しております。今年は、イチゴ狩りに伊香保まで出掛けてきました。また、夏祭り兼運動会として、地域の集会所をお借りし、地域の皆様のご協力を得盛大におこなうことができました。また、会議や研修を通して、職員の質の向上に努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年3月に事業継承後、中学生の職場体験・大学生の実習・お祭りへの参加・ボランティアの受け入れ等、積極的に地域交流に力を入れている。併設のデイサービスとの合同で運動会・演奏会・カラオケ等に行ったり、デイサービスの休日にお風呂を借用し利用したり、利用者と一緒に事業所内の清掃を行い、動きのある様子が伺える。新旧の職員がいる中で管理者は熱い思いで職員を育て、夜間は職員の他に宿直を置き、職員はもとより利用者・家族に安心して頂ける事業所となるよう支援している。デザートのパイキングや、おでんを鍋で提供したり、模索しながら楽しんで頂けるよう支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼開始時、出勤職員全員でらんざん苑の理念を声に出してから、朝礼を開催しております。「家族のように・気持優しく・悔いのないよう・敬意をもって・心ある介護を目指します」に沿い職員が常に理念を意識し、共有し実践につなげております。	今年の3月に事業継承した事業所であり、前職員と新職員がいるため、毎朝朝礼の時に声を出し唱和する事により、理念の理解を深め共有している。法人理念の基で介護職員として実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域のボランティアさんを受け入れ、交流を図れる体制を整えております。防災訓練の際も、近隣の協力を得て実施しております。散歩等でも近隣の方に声をかけながら、入居されている方々の理解をしていただくよう努力しております。また、地元の行事にも率先して参加しております。	中学生の職場体験や大学生の実習を受け入れ、介護職の楽しさや魅力を伝えている。ボランティアの受け入れや、地域のお祭りに参加したり、デイサービスとの合同行事に住民の参加もあり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について理解していただくため、民生委員様や、地区の役員様対象に認知症サポート養成講座の開催にあたり、行政と連絡調整を行い実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告と行事等実施の報告をおこなっています。また、行事予定についても委員様にもご協力していただくようお願いをしています。入居者のかたも推進委員として参加していただき意見等お聞きしながらサービスの向上に努めています。	地域包括・区長・家族・利用者の参加の下で、事業所から運営状況等について報告している。利用者の日々の生活について率直な意見交換を行い、出された意見は管理者・職員で検討しながらサービスの向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿生きがい課の職員等と連絡を取り合いながら、事業所の運営等について指導やアドバイスをいただいております。運営推進委員としてのご協力いただいております。	地域包括支援センターの担当者とは、運営推進会議や訪問時に、運営上の報告や利用者の事例相談に応じて頂き連携が図られ、事業所の実情を理解して頂き関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は、2階が生活の場となっており、エレベーターがなく階段しか乗降の手段ないうえに出入り口は、すぐ階段となっており、危険であるため、安全面を考慮し、開閉ドアと引き戸の2方式をとっています。開閉は可能であるので、利用者のかたを見守り、拘束せず、事故防止できるよう努めています。できるだけ、自由に外出できるよう援助しています。	身体拘束のない支援について研修・話し合いを行い周知を図っている。危険につながる行為については、その引き起こす原因や対策等の検討を行い、寄添いながら安全を確保し、不適切な対応が無いよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の外部研修を通して虐待防止に関する知識を広げ、アザや傷の観察し見逃さず報告するよう徹底しています。職員の不適切な言動等予防のための研修も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度より開設した施設のため、まだ、活用できる状況ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約内容、重要事項説明書について説明をし、疑問点や不明な点を確認しながら、十分納得をしていただいてから署名・捺印をしていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等にはすべて、ご家族に案内状を発送しながら、ご意見を伺ったり、要望をお聞きし、反映するよう努力しています。また、ご意見箱を設置しております。ご家族にも運営推進委員になっていただき、意見要望を伺っております。	日頃の話しやすい環境づくりを念頭に置きながら、利用者の要望・意見に耳を傾け、速やかに対応し改善に取り組んでいる。家族の来所時には職員から声掛け、接するようにしている。意見箱も設置している。	事業所の運営に、より多くの家族の協力を得、意見や要望を反映できる様、更なる積極的な取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議と介護会議を設け、職員の意見や要望、運営改善に関する意見など参考にしながら反映しています。	全体会議、リーダー会議、ユニット会議等の場を通して、また日常の協議相談の中で、気軽に意見や提案を聞く機会を設け、各書類の書式や業務内容も変更している。アンケートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員は、希望休4日入れられるように、非常勤は、勤務時間、日数は申し出があれば変更可能であり、自由に休暇が取れるよう配慮しています。研修や介護会議等には、常勤、非常勤関係なく参加できる場を設け、やりがい、向上心を持って働けるよう職場環境等の整備に努めて降ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のお互いよいところの発見をしていただき、よいところを伸ばしていくことができ、チーム連携の指標としています。また、参考にしながら、個人面談を行い、メンタルケアに取り組んでいます。また、勤続年数による研修や記録の書き方研修等参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し、他施設との情報交換の場をもち、参考にしながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の意向を聞き、不安なことなど取り除くよう寄り添い、安心できるような声がけをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、家族とは関わり、入居時不安なことなどにみみを傾け、安心していただけるようお話を十分しています。また、随時、家族と連絡調整をとるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討の段階から関わり、まず、自宅での生活継続できないか、ケアマネージャとの連絡調整をしながら、他のサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ADLにあわせ、できないところの援助を行い、できることは自分でやっていたき、ともに生活する意識を持ちながら楽しく生活していただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来ていただき、外出、外泊等可能な環境を整え、家族ならではの支援（親戚を集めた誕生会や米寿のお祝い等）をお願いし、家族との絆を大切にしております。また、行事等のご案内により、ともに楽しめるよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所の方や、お付き合いのあった方への面会等により、関係が維持できるよう支援しております。	入居前の理美容室の継続利用や、知人友人の来所を歓迎し場所を設けたり、家族と買い物や泊まることはないが、自宅に帰る利用者もいる。信頼、安心を損なわないよう配慮し、自由に交流していただく支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ、ホールで皆様と過ごす時間をとり、コミュニケーションを取れるような環境をつくっています。また、ADLにより、動きやすく、話しやすく、聞きやすくテーブルの位置にも配慮しています。それぞれの役割への支援を行うことにより、支えあえるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、例がありませんが、今後は、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や援助に努めてまいります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や思いを伺い本人の意向に沿ったケアプランを作成しています。不明な場合は、家族からの話を参考にしております。	利用者からの希望、意向を聞いた際には、記録に残し職員間で共有し、内容により家族にも伝えて実現可能な形になるよう努めている。意思を十分に言葉で表せない利用者には、思いを汲み取れる様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問や面談を通して、家族や友人ケアマネ等から情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に毎日の日課、食事状況、排泄状況、バイタルチェック等を記載し、日々の生活状況を確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を配置し、日々の生活状況の中から、介護計画を作成し、介護会議等を通して、カンファレンスを行っています。また、家族とも連絡調整を行いながら、介護計画の見直し等を行います。	主治医のアドバイスや、カンファレンスでの職員の意見アイデア等を、家族に伝え相談しながら介護計画を作成している。モニタリングを毎月行い、利用者の変化により、その都度、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に毎日の様子を記入し、職員が目を通し情報共有を行います。必要に応じ、カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望等により、受診の付き添い、買い物等を行い、入居者の方が快適な暮らしができるよう支援しております。その時々により、居室配膳も行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアを受け入れ、音楽や陶芸踊りの鑑賞、傾聴等楽しみながら生活できるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医の希望等確認し、医療と連携をとりながら、継続できるよう支援しております。家族受診希望方以外は、職員が付き添いで受診等も行っております。	契約時に確認し、入所前からのかかりつけ医を希望される方には、家族対応をお願いしているが、通院支援も含め、引き続き受診できるよう配慮している。併設のデイサービスに看護師が常駐しており、協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は、1階にデイサービスの看護職員を配置しているので異変等ある場合は協力体制がとれるようになっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へは、本人の情報の申し送りを行い、退院時は、情報提供をしていただき、必要な対応を確認しています。また、ソーシャルワーカーからの申し送りや看護サマリーによる情報を把握し、安心してもとの生活ができるよう支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時はもちろん、入退院等により重度化している段階で、家族、本人の今後の意向を聞きながら、方針を見出し、いけるよう支援しています。また、運営推進委員会においても、現状報告し意見を参考にしております。	重度化対応及び終末期ケア対応指針があり、事業継承時に事業所の基本姿勢を本人や家族に説明している。利用者の状態に変化が生じた時に、改めて家族・主治医・職員と話し合いを持ちながら方針を共有し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をいただき、地震等による災害などでの対応の訓練を行っています。また、AEDの使用法についても実践研修を行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を頂き、避難訓練を実施しております。実施にあたり、近隣のかたにお声がけもしております。運営推進委員の方にもご協力いただいております。	訓練時には、近隣の住民への参加協力をお願いしている。消防署の指導の下で、避難訓練を実施し、区長の参加を得ている。	夜間想定での訓練が大切であり、夜間時の連絡網を構築し、連絡網を訓練に取り入れた、避難訓練の実施を望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の大先輩である意識をもち、言葉使いの研修を通して、利用者のかたのプライドを傷つけないよう心がける。特に、入浴、排泄の介助においては、恥じらいがあることを意識しながらプライバシーの保護に努めています。	人格の尊重等についての研修を受け、自尊心を傷つけないよう、日常の言葉遣いなどに配慮している。特に排泄や入浴の介助の際は、誇りや尊厳に気をつけ、利用者個々にあった言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに何をしたいのか、どうしたいのか、声をかけながら、自己決定していただくよう心がけています。また、外食等では、食べたいもの等自分で決定する機会を設けたり、散歩や、行事への参加の有無等においても意思を確認しながら実施しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいときは居室で横になっていたり、テレビを見たいときは、ホールで過ごし、カラオケ等の希望があれば自由に参加していただきます。個人的に、脳トレーニング希望があれば寄り添いながら行っています。歩行訓練等の機能訓練希望のかたにおいても同様です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容のボランティアの受け入れもしており、希望者は散髪、髭剃り等願っています。外出し、美容院に行かれるかたもおります。洗面台の前でも身だしなみや整髪等の声がけをしながら支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の嗜好や食事形態を配慮し、楽しく栄養バランスのとれた食事の提供を行っています。畑の野菜と一緒に収穫し、調理前段階のお手伝いをしていただき、下膳は個人個人でできるところまで行っていただきます。お絞りの準備や片付けもしております。	食材はセンターから熱い物は熱く、冷たい物は冷たく配送され、職員が盛りつけ提供している。おやつ作りは、利用者にも手伝って頂いている。鍋物やデザートのパイキングを実施したが、取りに行く利用者はいなかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人のケース記録に、食事量や水分量を毎回記入し、1日を通じての状態を把握し、経過を観察しております。また、個人の既往等にあわせ、本体の栄養士と相談しながら適した食事を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人個人の機能に合わせ、歯磨きの実施や、うがい等により口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のケース記録に排泄状況を記入し、排泄パターンや習慣を把握しています。状況によっては、紙パンツから布パンツへの移行や、ポータブルとの併用等を行い、自立にむけた支援を行っております。	ケース記録や表情、仕草などから利用者の排泄習慣を把握し、羞恥心とプライバシーに配慮した声かけ誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄支援を行っている。入居前からの継続でポータブル利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人のケース記録に記載された水分量、排泄状況、食事量、レク等を参考に栄養バランス、運動状況を確認しています。状況に応じ、牛乳などの乳酸系や、野菜を多めに摂取していただくよう声がけております。可能な場合は、階段の上り下りも取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回から3回入浴していただくようにしております。個人のペースにあわせゆくり入浴していただきます。一応入浴日は、基本的には設けてありますが、希望があれば、その希望日に入浴をしていただくこともあります。	週に2～3回は入浴して頂くよう支援している。利用者の要望等に応じた曜日や時間があれば配慮し、入浴を楽しんでいただけるように努めている。無理強いすることなく、足浴やシャワーでも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をベースに自由に過ごしていただきます。居室で横になりたい方は、自由に横になっていただき、お手伝いや、レク等希望の方は、一緒に楽しんだりしております。居室には、冷暖房完備されており、気持ちよく眠れるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員がすべて管理しており、薬の説明書にも目を通し、服薬時間、用法等を確認しながら、実施しております。体調の変化に合わせて、時に医師に指示を仰ぐこともあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割を担っていただき洗濯ものを干す、たたむなど、できることをお願いし、自分の存在感の大切さを実感していただきます。おやつづくりや、外食、散歩、夏祭りでは、カキ氷やわたあめなどたべ、楽しんでいただきました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望のかたには、随時、職員が付き添って、戸外に出掛け気分転換を図っています。日帰り旅行では、ご家族とともに、いちご狩りと外食を楽しみました。近隣の和紙センターに出向き、和紙づくりの体験と外食などを実施し、地域のかたと触れ合う機会を設けております。	利用者の体調やその日の天候を考慮し、家庭菜園での収穫や、散歩に出掛け、地域住民と挨拶を交わし交流を図っている。散髪・買い物・外食にも出掛けている。バスを利用し、家族の参加協力を得て伊香保への旅行を実施し、利用者や家族に大変喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主な金銭管理は、ご家族が行っております。お小遣いは、施設で預かり、外食時にご自分でメニューを選択していただき、支払いをしていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の方など、なかなか面会にこられないかたには電話での状況報告、また、手紙を本人あてに書いていただき、寂しい思いをさせないように支援しています。また、本人も自由に電話していただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南西側に共有空間を設けており、明るく見晴らしがよく、生活感や季節感を感じていただき、集まった際は、皆さんでお話したり、作業したり、レクリエーションをしながら楽しんでいただきます。	事業所内の腰板は、全て天然木が使用され、温もりの感じられる内装となっている。廊下は暗くならないよう、中程に天窓の明かり取りが付いている。丘の中腹にあり、居間の陽ざしの入る窓からは、自然の景色が目に入り、環境の大変良い事業所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファを設置し、外を眺めたり、テレビをみたり、気のあった方とのコミュニケーションができるよう工夫しています。居室には、自由に行ったり来たりできるような構造になっており、プライバシーの保護にも努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の大切にしていたものや、使い慣れたものを、持ってきていただき居心地よく家庭のように生活していただくよう支援しております。	居室は、使い慣れた馴染みの椅子・テーブル等を持参し、それぞれの趣向、好みに合わせ、その人らしい雰囲気漂わせている。思い出の品々に触れることで、安心と落ち着きが得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレの場所が分かるように目印を行い、使用中の札等用意し、できることをしていただき自立した生活ができるよう支援しております。		